

令和４年度第２回 姫路市官民データ活用推進会議

別紙

- 開会
- 会議成立報告および傍聴定数確認

- 議題「次期計画に関する審議について」

※以下、「本計画」は「姫路市官民データ活用推進計画」を指すものとする。

事務局	議事説明（第１章から第３章）
	議事（第１章から第３章）に関する質問、意見
委員	第２章 ３ デジタル技術の進展における、「先進デジタル技術の進展により、従来できないと諦めていたことが可能な時代に」とは、どういう意味か。
事務局	例えば、離れて暮らす親族が、これまで中々顔を見て会話することができなかったことが、オンライン通話環境が一般的に普及することにより、いつでも手軽に、顔を見て、交流できるようになったことなどである。
委員	第２章 ３ デジタル技術の進展における、「新型コロナによる「新しい生活様式」への対応によりイノベーションが急速に進展」とは、どういう意味か。
事務局	新型コロナウイルス感染症の影響により、非接触非対面の環境の必要性が求められ、民間企業を中心に、メタバースのような新たな技術を使ったサービスが一気に実用化されているようなことである。
委員	他の具体的な例で申し上げると、オンラインでの会議や商店街でのキャッシュレス決済が普及するなど、実生活の中でデジタル技術が身近になってきている。
委員	第３章の視点３における「生産性向上」という表現は、市民目線でいうと一般的ではないように感じるので、「地域の魅力のより一層向上」のような表現にできなかつてほしい。 また、第２章 ２ 姫路市の現状と課題においては、人口減少が表現されているが、市内での人口の偏在化の点も踏まえて、計画本文の施策の内容を検討してほしい。
事務局	「生産性向上」の表現については、行政としては一般的な表現であるが、ご意見を踏

	<p>まえて検討したい。</p> <p>市内の人口バランスの偏在化という問題点に関しても、今後対応していかないといけない大きな課題という認識ではあるため、検討していきたい。</p>
委員	<p>新型コロナウイルス感染症によって、一定程度オンラインに慣れてきたが、一方で、オンラインに物足りなさを感じられ、対面や直接会話の良さが再評価されていることから、リアルの世界の充実に繋がるような視点で政策を進めることも重要であると考ええる。</p>
事務局	<p>ご発言のとおりデジタル化の生活が一時満足されていた雰囲気があったが、対面での交流によって新たなイノベーションが生まれるという考え方も再認識されつつある。</p> <p>また、障害者や高齢者の方々については、デジタル技術によって、これまでできなかったことが疑似体験でもおこなえることで、世界が広がる部分もある。</p> <p>そのため、その人それぞれの幸福や充実に満ちたすという観点を考慮して策定作業をすすめたいと思う。</p>
委員	<p>計画の中に SDGs の視点をもう少し意識しておく必要があるのではないかと。</p>
事務局	<p>視点の3が、商工会議所でも提唱されている「サーキュラー・エコノミー（循環型経済）」の考え方に近いと考えており、計画本文の内容の表現を工夫したい。</p>
委員	<p>本計画に対する客観的な印象としては、「インターネットを使ってなにかをするのだろう」という漠然としたイメージが浮かんだ。自分たちの身近なものが、もっと便利になっていくというイメージを感じられるように作成してほしい。</p>
委員	<p>パソコン教室や携帯電話教室を行っているが、機能の大部分を「使いこなせていない」という感想がでてくるが、誰も使いこなせている訳ではなく、得意な部分を上手に使っているだけで、そのような機器を「使う側のリテラシー」の向上を盛り込むことはできないか。</p>
事務局	<p>行政が策定する計画の中身は、難しい表現になりがちで、市民の方が難しいイメージをもっていることは、常々感じている。日々の生活においてデジタルの恩恵を受けている部分では「デジタル」を意識することはないが、デジタルという表現を見ることで、意識のハードルが上がっているようには感じる。概要版では制約があるが、計画本文において理解しやすい表現になるよう努力したい。</p>

	<p>また、同じく行政は押しつけ型になる傾向があるため、デジタルに苦手意識を持っている方に対してのアプローチを、「使う側のリテラシー」というキーワードも参考に、計画本文を検討したい。</p>
委員	<p>姫路ライフ・デジタル戦略（以下、「戦略」とする。）とは具体的にどのようなものか。</p> <p>また、本計画の推進を戦略に反映させていくという認識でいいか。</p>
事務局	<p>昨年度策定したもので、本計画の推進力を高め、デジタル化を加速させ、優先的・重点的に、短期・中期の課題の解決を積み上げていくもの。また、その課題を、若手職員で構成する部署横断的なタスクフォースチームを結成し、課題の解決策の検討と提案をしてもらい、目指すべき姿に向けて具体的な取組みを進めて行くものである。これらの取組みの方向性や考え方などを、本計画が上位計画として定義していくものである。</p> <p>本計画に基づいて、各部署においてはそれぞれデジタル施策を進めるとともに、複数部署が連携して取り組む、喫緊の課題については戦略に落とし込んで推進していくという関係性である。</p>
委員	<p>若者はデジタルに対しての感度がいいのは経験として感じている。一方で、高齢者を含むデジタルに対して無関心な世代が、若者よりも本計画を見る機会は多いと思うため、姫路版スマート都市のイメージも含めて、そのような世代への発信を工夫して行えばよいと感じます。</p>
事務局	<p>デジタルに苦手意識がある方に対して特別なものを作ることで、その問題は解決するが、一方でデジタルに対して親和性が高まっているのかという点では疑問が残る部分はある。デジタルに苦手意識をお持ちの方に、そのような対応が正しいのか、一方で慣れて行ってもらう方が正しいのか、どうアプローチをしていくかについては非常に悩ましい。ただ、本市としても、各地域において様々な講座を行っており、それを続けることで、効率的に進めて行きたいと思っている。</p>
事務局	<p>デジタルに苦手意識をお持ちの方に対する取組みは、行政だけではなく、様々な主体間で支え合い助け合って、皆さんと一緒に目標達成するような形を打ち出せたらと感じている。</p> <p>イメージ図については、最新のデジタル技術を活用して、例えば、スマートフォンを</p>

	<p>かざせば動き出すような（ＡＲ技術を使ったような）ものであるとか、動画がながれるものであるとか、工夫を模索したいと考えている。</p>
委員	<p>「多様な主体」という表現で括られているターゲットがどこまでを指すのか、イメージ図に表現できれば、わかりやすいように感じる。</p> <p>また、「豊かな地域資源」という表現の中に、例えば個人が持っているスキルや民有地、行政が持っている公有地など、いろいろなものが地域資源だと思うため、そのようなところも表現できると良いと感じる。</p>
事務局	<p>「多様な」の表現に関しては、具体的イメージ図が表現できるように工夫したい。</p> <p>地域資源の表現に関しても、工夫したい。</p>
委員	<p>データや情報も豊かな地域資源になるため、そのことも考慮してほしい。</p>
委員	<p>このような概要版を市民の方がどれぐらいみてもらえるのか疑問である。表現されている言葉は難しく、生活に直結している感じが伝わらないため、自分たちが自分ごとのように感じられる表現を、イメージ図も含めて検討いただきたい。</p>
事務局	<p>市全体に言えることだが、国や県の計画との整合性をとるためにも、難しい言葉になる傾向にある。市民の方に興味をもってもらい、理解をいただき、また意見をいただけるかが大きな課題だと思っている。</p> <p>イラストやイメージ図、動画などで分かりやすさも検討しており、予算面での課題も検討しつつ、最大限努力して工夫をしたいと考えている。</p>
委員	<p>このような計画については、広報誌でもわかりやすく紹介されているので、ぜひ広報誌を活用していただきたい。</p>
事務局	<p>表現だけでなくＰＲ方法についても工夫していきたい。</p>
委員	<p>本計画は、市民目線で見ると難しいところが多いと感じるが、国や他の自治体、その他関連企業の目線で見ると、非常によくまとまっていると感じる。基本理念の３つの視点においても、過不足なく書かれており、基礎自治体が重要すべき市民が一番に表現されているところも良いと考える。</p> <p>市民の方への表現は、具体的な事例を表現した方がわかりやすいと思うので、そのような広報が効果的なのではないかと考える。</p>

事務局	議事説明（第４章及び第５章）
	議事（第４章及び第５章）に関する質問、意見
委員	K P I の設定については、どのようなものを考えているのか。
事務局	<p>計画の進捗状況を評価するためにも、しっかりとしたK P I が必要だが、まだ、十分に検討できていないのが現状である。</p> <p>委員の皆様方から、基本的政策ごとに、提案いただける案など意見をお伺いしたい。</p>
事務局	必ずしも政策局で決めるものだけではなく、他部局においてもそれぞれが示すような計画上の数値なども取り込んで、設定したいと考えている。
委員	<p>教育現場において、デジタルツールを活用できている事例を見てみると、デジタルを活用するにあたって、便利さを感じる観点として、Q R コードをカメラでかざすだけ、音声で入力ができるなど「入口」をしっかりしていくということが重要だと感じている。</p> <p>また、障害を持っている小学生や中学生などのこどもたちでも、デジタルを活用できるようなK P I を設定してもらえればと思う。</p>
事務局	特に行政において好事例を共有し取り入れてもらうためにも、働きかけが必要だと感じるため検討していきたい。
事務局	そのような共有の弊害になっているのは、行政の縦割りの考え方があるように感じるため、改善できるよう検討していきたい。
委員	<p>第５章 １ 推進体制 （１）庁内推進体制 イ にある「姫路市情報化推進委員会」は、庁内の調整会議的な位置付けなのか。部署横断的な主導権を握れるような体制を明記して、調整していただきたい。</p>
事務局	<p>本計画の担当課であるデジタル情報室が、計画に基づくデジタル施策の全庁的な調整と推進する役割と認識しており、各部局が抱えている課題などに関して、デジタル・マネージャーの支援を受けながら、事例の紹介や事業への落とし込みを行っていくことも重要な役割だと認識している。</p> <p>姫路市情報化推進委員会は、計画全体の取組みがしっかり推進されているのか進捗管理する役割である。</p>
委員	第４章（１）行政サービスのデジタル化について、「行政手続のオンライン化・デジタル

	<p>化」があり、それに伴う「窓口サービスのオンライン化・デジタル化」が必要で、そのためにも「マイナンバーカード多目的利用の推進」が必要という認識でよいか。</p> <p>(3)の中で、中小企業が発展していくなかで、姫路市商工会議所との連携が必要だと感じているが、どのように考えているか。</p>
事務局	<p>必ずしも順番を意識したものではないが、まずは、いつでもどこでも手軽に行政サービスができる形を目指すための「行政手続のオンライン化・デジタル化」があり、そして、デジタル技術を活用して来庁が難しい方への窓口サービスの利便性を高めるためにも「窓口サービスのオンライン化・デジタル化」が必要である。また、安心して安全に本人の情報を行政サービス等に利用するためにも「マイナンバーカード多目的利用の推進」が必要だという構成になっている。</p> <p>中小企業のデジタル化については、当市産業局の支援事業もあるが、場づくりや機会づくりも含めて、何かしら取り組みの方向性をお示しできればと考えています。</p>
委員	<p>姫路商工会議所の取組みとして、ITの相談窓口の設置し、セミナーで啓発活動を継続している。</p> <p>そのような取組みでの課題としては、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタルに対して、アレルギーを示す方も非常に多い。 ・ツールを導入することによって劇的に会社経営が変わるという意識をもっている <p>これらの課題に対しては、上記の取組みにおいて、経営計画をきっちり立てた上で、補足的に便利なツールを使い、結果、生産性高まったという意識をもってもらうように説明している。</p>
委員	<p>また、KPIについて、経済界のスマホ講座・パソコン講座も連携していければと考えているため、相談いただければと思う。</p>
委員	<p>第4章(5)地域資源を豊かにするデジタル活用について、さきほども申し上げたとおり、企業や行政がもっている資産を有効活用できればと考えます。例えば、市の公用車を休日に民間に貸し出す自治体や公民館などの予約をDXして使いやすくするなどの取組みもあるため、検討いただきたい。</p> <p>また、地域間の交流や連携においても、地域間だけでなく世代間の交流や、さまざまな交流での格差の問題の解消などの観点もいれてはどうか。</p>

事務局	<p>地域資源の活用においては、他市の事例も把握し、本市としても取り組めるかどうか検討していきたいと考える。</p> <p>また、地域コミュニティに関しては、第４章（５）地域資源を豊かにするデジタル活用内の「地域の活力向上の支援」の中に含まれている。地域には、公民館などの拠点施設があり、そのような場所での交流により活性化の向上を図りたいと考えている。</p> <p>地域間（自治体間）の連携については、取組みの一つとするのか検討する。</p>
委員	市民の方の意見をフィードバックする仕組みの定義を検討してみてはどうか。
事務局	住民参加型のデジタルツールについては、他市事例も把握しており、研究していきたいと考えている。
委員	市民の皆さんが、デジタルに対して興味をもってもらえるようなキャッチーな取組みを行っていただければと考える。また、アクリエ姫路などの施設において、デジタルサービスなどをトライできるような場づくりを行っていけば、市民の方が身近に感じるのではないか。
事務局	デジタルへの好意的な気持ちが、行動に現れるようなアプローチを行政としても考えていくべきだと認識している。また、物理的な空間またはデジタル空間においてのイベントを実施することで、興味をもってもらうきっかけになると考えるため検討していきたい。
委員	デジタル技術を用いた子どもの学習環境の担保と先生へのサポートについて、教育委員会と連携を図ってほしい。
委員	海外の教育現場においては、遠隔事業等を行う際に、サポーターがついている事例もあるため、教育環境の格差が起こらないようにしていただきたい。
事務局	I C T支援員の制度も推進するなど、教育委員会とも連携していきたい。

事務局	事務連絡
事務局	<p>次回第３回の日時は、11月25日（金）13:00～14:30。</p> <p>また、委員各位においては、計画案に対しての追加の意見や資料の提供などを、事務局に提出可能な機会を設けるため、是非送付いただきたい。</p>

審議事項および議事要旨のホームページへの公開並びに議事要旨の事前確認について確認

16時28分 終了